



# 道徳だより

2025.7.9 号  
みよし市立緑丘小学校



本校は、令和7年度の道徳教育推進事業の研究推進校に選ばれ、道徳教育に力を入れています。その取組の成果を11月27日(木)に推進委員の皆さんに発表することになっています。そこで、本校での取組を保護者の皆さんにも知っていただき、地域や家庭とともに道徳心を育てることに協力していただけるとありがたいと思い、道徳だよりを発行することにします。今回は、道徳教育の考え方についてQ&Aを使い、分かりやすくご説明します。

## Q1 道徳の授業は本当に必要なの？

学校では、週に1時間、道徳の授業を行っています。道徳は2018年度から教科化され「特別の教科 道徳」として各校で力を入れています。教科書を使用しながら、1年生は年間34時間、2～6年生は年間35時間の履修が義務付けられています。子どもたちにとって道徳の授業は必要です。道徳科は【道徳性を養い、道徳的な判断力等を育てる】ことが目標であることが示されています。保護者の方々の道徳に対するイメージは、【教師の一方的な問いに子どもたちが答えている受け身の授業で子どもたちより教師が目立つ授業】かもしれません。しかし、今の道徳の授業は友達と考えを交流しながら『納得』や『発見』がある魅力的な授業となっています。9月の授業参観は全学級で道徳に取り組みますので、ぜひ見て、実感していただきたいです。

## Q2 道徳って分かり切ったことを話し合うだけでは？

道徳の話し合いでは、分かり切ったことではなく『納得』や『発見』があるように取り組んでいます。『納得』や『発見』とは、「なるほど、確かにそうだな。そういう見方や考え方ができるな」と思い当たる節があるのだけれど、自分は気付いていなかったことに新たに気付くことです。でも、よく考えると、**気付いたことは、もともと自分の中にあったものです。**このように子どもたちの心の中にある価値の高いものを取り上げ、みんなで磨き合い『プラス思考』で進めています。

## Q3 道徳性とは何ですか？

例えば、「ごまかさず、正直・誠実に生きる」という姿は、「行い、行動」であるのに対して「なぜ、ごまかさず、正直・誠実に生きることが大切なのか」が「道徳性」です。それには、「叱られるから」「嘘つきと思われたくないから」「正直である自分が好きだから」など、さまざまな理由があります。これらが道徳性に相当します。つまり、**見えている人の行動は、見えていない心の中の「道徳性」に支えられています。**道徳ではこの「道徳性」を育てることを目標にしています。

## Q4 道徳性は授業だけで育てるの？

道徳の授業が魅力的になり、話し合いも活発になると道徳性は育ちますが、それだけでは足りません。道徳の授業は「**考え合う道徳教育**」です。道徳の内容を取り上げ、その意味や意義について考え合います。それ以外のすべての教育活動(日常生活、学校行事、各教科、学級活動など)全体で行う道徳教育は「**体験による道徳教育**」です。学習を通じてさまざまな人やもの、ことと出会い、子どもたちの心は育っていきます。だから、教育活動全体に相当する「**普段**」から道徳教育を意識してそれぞれの教科や休み時間などの指導をすることで、子どもたちの心を育てるさまざまな機会とつながり、その中で貯め込まれた「**豊かな心**」を道徳の授業で考え合うことによって自覚できるようにしています。